

人 チーム 制度



ナンバーワンではなくオンリーワンをめざして

(株)建設技術研究所
道路・交通部都市室 高橋富美さん

今回ご紹介するのは、ご自身が子育て中で時間的な制約のある中、多様な構成員からなる室のメンバーを統率する(株)建設技術研究所の高橋富美さんです。

まずは高橋様自身の経歴や現在の仕事内容、立場についてお教えてください。

大学では農学部の造園学を学び、平成9年に入社しました。建設コンサルタントとは何かを知らずに入社し、土木の専門用語もわからず、当初はとまどってばかりでした。入社してから環境やまちづくりの業務に携わり、33歳で長女、37歳で長男を出産。第一子出産予定時には退職を考えましたが、出産・育児休暇の充実した会社を辞めるのはもったいないと周囲に言われ、とりあえず続けてみることに。第二子出産時には、正社員から契約社員になり、仕事をセーブして頂きました。その後、正社員に復帰し、昨年度に新設された都市室の班長となり、本年度より室長代理として、室長のもと、室員と日々仕事に勤しんでいます。

室の紹介
メンバー：室長、社員5名、契約社員2名、アルバイト3名、他3名
年齢構成：20代3名、30代3名、40代6名、50代2名
男女比：5：9
主な業務：都市計画・まちづくり、公共交通計画、事業化検討、公園等施設整備



どのようなチームでどのように仕事をされていますか？

現在の室は、女性比率が高く、打合せが女性技術者だけで、発注者に驚かれることもあります。室員には、育児のために時短をとっている男性社員、契約社員でお子さんがいるのに社員以上に発注者の信頼の厚い女性等、理由や立場は様々ですが、仕事だけに自分の時間を費やすことが物理的に難しいメンバーで主に構成されていると思います。現実には業務が集中することもあるので、メリハリをつけた働き方の実現を、全員でめざしています。誰かが突発的な事情等で十分に働けない時は、その他のメンバーでカバーすることが必要ですが、普段からコミュニケーション

ンをとることで、互いの状況を理解し、気持ちよく補完しあえるチームとなることに気を付けています。一方で、技術者としてのスキルアップも重要なので、研修や社内外の活動も、特に若いうちから積極的に参加し、幅広い視野や仲間を構築しておくことを推奨しています。仕事なので、数字の目標を追うことも必要ですが、各自が楽しく、誇りを持って仕事をしていくことが、成果につながる組織になることを目指しています。

お子さんがいらっしゃるようですが、ご自身に時間的な制約がある中で、苦勞している点や工夫していることはありますか？

自宅から徒歩3分に義母が住んでいるので、子ども達の面倒はほぼ義母がみてくれています。仕事を継続できたのは家族のお蔭です。子どもができるまでは、仕事は個人でするものと考えていましたが、子育てと仕事の両立が必要になると、周囲と連携して仕事を進めることの重要性を身を持って知ることができました。また、それを実現するためには、他人に甘えるばかりでなく、自分の責任や義務は必ず果たすこと、自分が出来る時は手助けにまわることも重要だと感じました。日々、時間との闘いなので、無駄な作業は極力排除し、限られた時間で最大限の成果を出せることを、常に意識しています。



室長代理を引き受ける時のお気持ちはどうでしたか？

室長代理は管理職ではないので、意識はしませんでした。班長に任命された時は、とまどいました。班長は、班(チーム)の実質的な運営を行いますので、自分のことだけでなく、室員のことや班運営にも配慮が必要となります。時間制約があるなかで、うまく自分にこなせるのか、全く自信がありませんでしたが、上司や部員、室員に助けられて、何とかなっていると思います。

女性活用がうたわわれていますが、働き方に悩む女性社員も多いようです。特に女性の若手社員に向けてメッセージをお願いします。

男性と比較し、女性は人生の選択肢が豊富です。キャリアをつんでも良いし、結婚・子育てに専念しても良いし。だからこそ、ふと振り返ったときに「これで良いのか」と不安になることが多いかもしれません。最終的には、他人の評価や社会的価値観ではなく、自分が自分らしく生きていることを大切にしたいと思っています。本当に自分のしたいことを見つける、そこに向けて一歩ずつ進んでいくことで、技術者として、女性として成長できるのではないのでしょうか。

※本文中の本年度=H28年度、昨年度=H27年度です。高橋さんはH29年度より室長になられました。管理職としての体験談もまたお聞かせ願えればと思っています。